

'12.7.24
起工式（安全祈願祭）挙行



鋤入れを行う岩田院長

起 工 式

NHO愛媛病院副院長 阿部 聖裕

平成24年7月24日、愛媛病院新病棟建設工事の安全祈願祭が行われました。

高須賀功東温市長、檜垣寛男愛媛大学医学部附属病院長、国立病院機構本部中国四国ブロック古川浩二統括部長、四国がんセンター稲沢義則事務部長を来賓に迎え、設計・施工関係者および当院関係者など約40人が出席しました。

式典では、水天宮の和田久幸宮司の祝詞（のりと）奏上に続き、鋤入れの儀や玉串奉典などで、工事の安全と新病棟の無事完成を祈願しました。施工主を代表して岩田猛院長が、「この地区の急性期医療を担い、愛媛大学病院や四国がんセンターと協力して医療の充実を図るためにもこの

新病棟は不可欠です。新病棟は新しい病院への転換期の象徴的存在になると考えております。」と挨拶しました。

新病棟は5階建てで施工延床面積9,438㎡、平成25年7月完成の予定です。

職員駐車場から建築現場の数本のクレーンを見上げ、職員のモチベーションも高まっています。これを良い機会とし、患者さんにとって優しい医療を提供すべく、皆で邁進していくつもりです。

工事期間中、関係各位、地域の皆様にはいろいろご迷惑をおかけすることと思っております。ご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

近年、内視鏡（胃カメラ）をはじめとする画像診断や治療法の進歩により、日本人の部位別がん死亡数調査で、長らく第1位であった胃癌は第2位となりましたが、約5万人/年とまだまだ胃癌で亡くなる方が多いのが現状であり、大腸癌が第3位、肝臓が第4位、膵癌が第5位など、本邦では消化器癌（おなかの癌）で亡くなる方が多いことが問題となっています。これらは早期に発見して治療すれば、完治するケースが多いので、検診が重要であり、当院では各種画像診断、早期胃癌に対するESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）、大腸癌および食道癌の内視鏡的粘膜切除術や肝臓への局所療法などを積極的に行っています。肝臓癌についてはウイルス肝炎に対する抗ウイルス療法や非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）に対する生活指導および各種薬物療法など、胃癌についてはヘリコバクター ピロリ菌の除菌、大腸癌には前癌病変の内視鏡（大腸ファイバー）切除などで発癌予防を目指すことが可能となってまいりました。また、ストレス社会の弊害が社会問題になっています。胃潰瘍や炎症性腸疾患などの関連疾患対策も急務であり、当院では内視鏡的止血術や薬物療法など、目覚ましい進歩を遂げた最新の治療法を取り入れて診療しています。

近年、地元の皆様が普段安心して診てもらえるかかりつけ医と、先進的な検査・治療を受け持つ質の高い診療拠点として認知された中核施設による、地

域医療連携体制の拡充が重要となっています。当院は東温市、松山市東部の中核病院であり、急性期医療と政策医療を担う国立病院機構の病院として、高度な医療を優しく安全に配慮して提供することができるよう、全人的な良医を育てるべく、院内外の皆様からの温かいサポートをいただき、消化器科一丸となって日夜努力してまいりました。その結果、日本消化器病学会と日本肝臓学会から、救急診療や悪性疾患、重症例の診療などを含む、消化器および周辺疾患全般について、長年の診療実績および教育内容が認められ、若手医師が奥深く学べて専門医を修得できる研修施設として認定されましたので、ご報告いたします。一緒にチームで頑張ってくれている各職種の仲間やご支援いただいている皆様に感謝申し上げます。

引き続き、地域の医療機関と連携を深め、当地域の医療レベル向上と専門医の育成に精一杯努力していきたいと思いますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



健康フォーラム2012 に参加して



5病棟看護師 本田祐美子

私は、今回初めて東温市健康フォーラムに参加しました。担当は血糖測定でした。初めは緊張して積極的に話すことができませんでしたが、自分の血糖値について興味のある方が多く、血糖値の推移についてや食事との関連など知っている情報を伝えると、興味深く聞いてくださいました。今回参加してみて、院内だけでなく地域の中でも幅広く知識や情報を伝える事で、たくさんの方の健康意識が高まっ

ていけるような活動を、糖尿病チームの一員として継続して行っていきたいと思いました。



5病棟看護師 大森かほり

私は今回、血糖測定を担当しました。参加された方の中には、糖尿病の治療中の方もいらっしゃいましたが、「両親が糖尿病だから、自分もならないか心配」「一度健康診断で血糖が高くてひっかかった。それから気を付けている」など、糖尿病と診断されていなくても、関心がある方が多くいらっしゃいました。糖尿病チームの一員としては、地域の方々が糖尿病に関心を持ち、早期の受診や治療の呼びかけが出来る機会になればと思います。





臨床研究検査部長 岩井です。よろしく

今年7月1日より重
心病棟担当として赴
任した岩井です。自己
紹介などをという依頼
でしたので、他の先生

方とは少し違った私の経歴についてお話しします。
私は愛媛大学医学部卒業後すぐには消化器内科に
所属していました。でもその後、大学院に入ると、
その実験のため生化学教室で勉強するように言わ
れて、そこで動物実験を始めました。実験を続け
るうち研究に興味が出てきたため、大学院卒業後
も生化学教室に残り、途中ドイツ(当時は西ドイツ)
への留学も含め、その後もこちらに赴任する直前
まで動物実験による研究を続けていました。

その内容はといいますと、最初は肝臓の代謝や
その自律神経による調節についての実験をしており、
最近では心臓血管の病気や動脈硬化の動物を作
って、心臓血管の変化に加えて脂肪組織や脾臓
の変化を調べていました。これらの仕事は、患者
さんたちに接して治療をする臨床医の仕事とはず
いぶん違うものですから、このたびこちらの病院
に勤務することになり、(もう忘れていたのですが)

大学院生としてはじめて生化学の研究室に行った
とき、最初のうち何をしたらよいのか全く分から
なかった頃の気持ちはこんなだったかもしれない
と院生当時のことを思い返しています(この新聞
が出るころにはだいぶ慣れてることを願って
います)。

このように、私はもう20年以上病棟での仕事か
ら遠ざかっていましたので、こちらに来る前また
着任後も不安はあるのですが、周りの方々に助け
られながら努めていきたいと思っています。研究
での経験を臨床の場に生かせるとよいのですが、
それは時間をかけて進めていければと思います。

最後に趣味などにも触れてみますと、私は中学
の時からブラスバンド部や合唱団に所属していた
ので、クラシック音楽を聴くのが好きで、棚にいっ
ぱいになるくらいのLPレコードやCDを集めてい
ます。ただこの数年は聞く時間をあまりとれない
のが残念です。

自分では、あせらずにできることから始めると
いう性格だと思っていますので、時間をかけたお
付き合いをお願いできればと思います。よろしく
お願いします。

医療の輪



八木耳鼻咽喉科・皮膚科医院

繋がる地域医療連携

耳鼻咽喉科・皮膚科とも専門医が診療を担当し
ています。耳鼻咽喉科も皮膚科も専門性の強い診
療科ですので、診診連携では他科から紹介してい
ただくことが多く、病診連携では当院ではできな
い検査や診断・手術を依頼することから、耳鼻咽
喉科・皮膚科のある病院を紹介することになりま
す。他科との連携は希薄になりがちですが、医療
の質を高めるためには無くてはならない科だと思
います。愛媛病院へは往診をしています。耳鼻咽
喉科の処置はベッドサイドでもできます。皮膚科
の診断・治療には専門的な知識が必要です。今後
とも当院を利用していただければ幸いです。

東温地区には、愛媛大学病院・四国がんセンター
があり、診療所も全診療科が揃っています。この
ように医療資源に恵まれた地域は他には少ないの
ではないでしょうか。各医療機関が親密に連携す
ればこの資源を有効に使えるでしょう。愛媛病院
がその中核病院となりますよう期待しています。



施設名	八木耳鼻咽喉科・皮膚科医院
住所	東温市牛淵1156-1
電話	089-964-5400
医師	耳鼻咽喉科 八木 拓 皮膚科 八木文子
診療時間	午前9:00~12:00 午後2:00~6:00 水曜日・土曜日は午前のみ
休診	日曜・祝祭日

今年も和やかに…

第3回 地域医療連携交流会開催

12.7.14



平成24年7月14日土曜日、東温市「利楽」にて愛媛病院地域医療連携交流会を開催しました。平成22年から始めましたこの会も今年で第3回を迎えました。第1回は中央公民館で手作り感のある会でした。第2回は中央公民館が耐震工事で使用できなかったため「利楽」で行い、入浴無料という特典付きでした。今回も引き続き利楽で行いましたが3連休の初日ということもあり、少し参加できにくい日程だったかもしれません。そのような中、東温市周辺はもとより遠くは大洲、西条といった地域からも出席いただきました。

引き続き第2部では、buffet形式で軽食と飲み物をご用意し、意見交換会を行いました。アルコールも手伝ってか大盛り上がりのテーブルもあり、普段はなかなか話づらい先生方や今まで電話の声だけの方とも実際お会いしてお話することができ、顔の見える連携につながる時間でした。医師だけでなく事務職、看護師、医療ソーシャルワーカー等さまざまな職種の方々と紹介いただいた患者様の様子をうかがったりお互いの立場の思いを語り、今後の連携により大きな力をいただけると実感しました。



第1部では「愛媛病院の新しい診療の取り組み」と題して呼吸器内科の植田聖也医師より“睡眠時無呼吸症候群”について、糖尿病内科の山内一彦医師より“糖尿病”について、外科の鈴木秀明医師より“内視鏡下外科治療”についてそれぞれアピールしました。また、今年は4月に診療報酬改定という大きな出来事がありましたので、ニチイ学館の方より「地域に密着した今後の医療連携を目指して」というテーマで医療連携の加算についてお話いただきました。健全な病院経営のために正しい知識を得る機会となりました。



このように第3回交流会が無事終わられましたのも院内外を通して参加いただいたすべての皆様のおかげと心から感謝しております。本当にありがとうございました。

今後さらに趣向をこらし、職種の壁を越えて交流が深まるような会を重ねていけるよう取り組んでまいります。今回出席できなかった方々、来年は是非ご参加ください。皆様にお会いできる日を楽しみにしております。今後とも愛媛病院をどうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室 小谷加奈子



第6回 臨床研究部講演会

12.7.13

正規臨床研究部が発足してから2年目になりました。院内標榜の時から毎年講演会を開いてきましたが、昨年よりNHO各施設の臨床研究部長に講演会にお越し頂き、研究成果と同時に臨床研究部の様子などもお話し頂いております。昨年は呉医療センターの谷山克巳先生（臨床病理）にお越し頂きましたが、本年度は高知病院の篠原勉先生（呼吸器科）にお越し頂き、平成24年7月13日（金）18時から「抗酸菌貪食肺胞マクロファージにおけるCOX活性の制御に関する検討」という演題で開催しました。初めの部分は高知病院の全体の様子や臨床研究部内部の紹介でした。病院の看板が何故かなつかしい「国立高知病院」のままであること、玄関ホールに鯨のオブジェが1頭つるされていること、呼吸器科などのスタッフのことなどをお話しされたあと、臨床研究部の話をされました。なぜか器材倉庫の奥に設置された実験室のこと、専任研究員（1名）・治験管理室・RI実験室のことなどを紹介して頂きました。



熱心に聞き入る聴講者

後半はご自身の研究について話されました。抗酸菌症の病態にはT細胞活性化が関係していますが、その活性化には肺胞マクロファージのCOX-2発現(PGE2誘導)が関係していることが知られています。先生らはBCG投与されたマウス肺胞マクロファージでは2種のCOX-2（核膜（活性型）と細胞質（非活性型））が発現されていることを発見され、BCGの投与経路によりこの2種の発現が異なり、T細胞活性化も異なるというものでした。見事な免疫染色による証明には感銘を受けました。また、片道30分以上かかる高知医大の実験施設を利用しているとのことで、そのバイタリティーにも驚かされました。

NHO施設の12の臨床研究センターと72の臨床研究部では独自の研究が展開されています。今後も他のNHO施設の臨床研究も参考にしながら、愛媛病院の臨床研究の向上も図ってゆきたく思います。積極的な参加と活発な議論を宜しくお願い致します。

本年も講演会の準備をして頂きました臨床研究部関係者の方々に感謝致します。

臨床研究部 部長 松田 俊二

新採用者

転入者

宿泊研修



こちら辺かな…

企画課 元原 正勝

23病棟 渡辺 知美

今年度より愛媛病院に赴任致しました、企画課経理係長の元原と申します。6月1日、2日の新採用・新規転入者を対象とした宿泊研修に参加させて頂きました。

グループ毎に分かれて、愛媛病院の理念について考え、発表するという形式の研修でしたが、カードを用いた分析手法など業務にも活かせるような研修内容であったと思います。また愛媛病院の理念についての考え方にしても、他職種の方の意見が聞け、とても貴重な経験ができたと思っております。

グループ作業の時間以外についても、懇親会等が設けられており、日頃あまり接することのない方々と話すことができ、親睦を深めることができたように感じます。

こういった新採用・新規採用者を対象とした宿泊研修は今回が初めての試みであったそうですが、今

1+1は？ にい～



後も継続的に実施できれば、病院全体としても有意義なものとなるように感じました。

私は6月1日から6月2日の宿泊研修に参加しました。この研修は今年初めての試みということで、病棟の誰に聞いてもどのような雰囲気での研修なのか分からず、少し心細い気持ちで当日を迎えました。

新採用や転入者といった、愛媛病院についてよく知らない人ばかりが約20人集まりました。簡単な自己紹介から始まり、院長先生や副院長先生出題のクイズや、1班4～5人に分かれて「愛媛病院の理念について具体的にどう考え、どう行動しますか」という議題での討議を行いました。

異なった職種や経験年数の違う人たちが、様々な視点から考え、師長さん等アドバイザーの方からのアドバイスも頂き話し合い、コメディカルや事務員から見た患者さんとの関わりや、病院の地域の中での位置付け等が分かりました。自分1人では考えないような貴重な経験をする事ができました。

宿泊ということで、食事をしながらの意見交換会や二次会もあり、普段病院では話をする機会のない人たちと共に、楽しい時間を過ごす事ができました。



同じグループになると思っけど…



我々リハビリテーション科の職場である機能訓練棟（リハビリ）が、6月30日に中央廊下の突き当たり、旧10病棟の仮設リハビリ棟に引っ越してはや2ヶ月が経ちました（8月30日現在）。愛媛病院ニュース28号にありましたように、機能訓練棟（リハビリ）跡地に新病棟を建築する工事の一環です。

5月初旬より工事開始。まず、機能訓練棟の周りに仮囲いがなされ、つぎに仮設リハビリ棟となる旧10病棟の改修工事が始まりました。改修は6月中旬に終了しました。

初めて改修後のリハビリ棟を目にした時の感想は「まあ、なんということでしょう」（某テレビ番組）

的な、予想以上の見事な驚くべき出来栄でした。さて、では実際の使い勝手、良い点、悪い点についてです。良い点ですが、旧訓練棟に比べ広く、明るい雰囲気、トイレがきれいになりやすくなっています。患者様からも同様の声を頂いています。また、事務室が一か所になり、スタッフ間の連絡が取りやすくなったことです。実際のリハビリ棟は、旧棟よりも少し狭いのですが、物品のレイアウトを工夫することで変わらぬ使い勝手となっています。

悪い点は、いかんともしがたいリハビリ棟への距離、動線の長さです。結果、通院の患者様、及び病棟の患者様搬送の看護師の労力増は、半端なものではありません。（毎日有難うございます）

自力で来られる患者様へ廊下の休憩用の長椅子の増設、リハビリ棟から外来への車椅子による移送援助等、少しでも通院負担の軽減となりますようにと、病院を挙げてバックアップしてくれています。

来年、新病棟5階にリハビリ室完成後、また引っ越しを控えています。引っ越し後も今回と同様に変わらぬ診療、サービスを提供できるようスタッフ一同頑張っていきたいと存じます。



朝・夕の風が心地よく感じられる季節となりましたが、いかがお過ごしですか。さて、皆さんは秋と言えば何を連想されますか～？

“スポーツの秋” “読書の秋” “食欲の秋” “芸術の秋” などなど…。

夏の間はなかなか食事がとれなかった方も、暑さが和らぎ過ごしやすくなってくると、少しずつ食欲が回復して食事が美味しくなってくるのではないのでしょうか。

秋になると、栗・梨・柿・秋刀魚・さつまいも・新米など美味しいものもたくさん市場に出回るようになります。

食欲にまかせてついつい、食べすぎてしまわないよう気をつけたいものですね。

そこで、今回は、体重コントロールをしていく上でのいくつかのポイントを御紹介します。

《体重コントロールのポイント》

1. 毎日3食、規則正しい食事を心がけましょう。
2. ゆっくりよく噛んで食べましょう。

※しっかり噛むことで、食欲中枢の刺激となり、満腹感が得やすくなります。

3. 主食（ご飯・パン・麺類など）+メインのおかず（肉・魚・卵・豆腐）+野菜のおかずでバランスよく

4. 適度からだを動かしましょう。

5. 理想体重を知っておきましょう。

※体重が適正かどうかは体格指数 Body Mass Index（ボディ マス インデックス）を用いて判定します。

$$BMI = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$$

BMI (kg/m ²)	評価
25以上	肥満
18.5以上から25未満	普通体重
18.5未満	低体重

BMIが25以上の場合は、「肥満」と判定します。

また、BMIは、22くらいが適正なので、目標とする標準体重は下記のように算出されます。

$$【身長】(m) \times 【身長】(m) \times 22 = \text{標準体重 (理想体重) kg}$$

体重コントロールのコツは、昔から言われるように、「よくからだを動かして、腹八分目に食べる」ことです。分かっているがなかなか実行できないのが、減量。そこで、ついつい、「飲めばすぐやせる!」「10日で5kg」など、魅力的なうたい文句にのってしまいがち…。まずは、じっくり考えて体重が増えてしまった原因を探ってみませんか？生活の中にきっと思い当たる問題点が見つかるはずです。

「いくら考えても、そんなに太るようなことはしていないんだけど。」という方には、「いつ、どこで、何を、どんな状況で飲んだり食べたりしたか」を記録することをおすすめします。今まで気がつかなかった原因が見つかるかもしれません。

何よりもご自身のからだの為に、食事や生活習慣をこの機会に一度見つめ直してみませんか？

心臓病患者さんを診療する上で、救命医療と心臓リハビリテーション医療が車の両輪の如く機能することが重要とされています。心疾患による急性期の死亡率を低下させるという意味では救命医療が非常に重要であることは言うまでもありませんが、発病後慢性期の生活の質を維持する目的さらには再発作を予防する目的で心臓リハビリテーションが注目されています。特にご高齢の方の割合が増えた近年においては、その重要性がますます高まっていると思われます。例えばご高齢の患者さんでは1日寝たきりになると体力が1%低下し、1歳年を取ることに相当すると言われてます。また、運動療法を積極的に取り入れることにより、心不全患者さんの長期生存率が約23%改善したことが報告されています。

当院では心臓リハビリテーションプログラムを開始して早いもので約5年が経過しました。今回、



講演の合間に...

心臓リハビリテーション教室開催 '12.6.20

医療従事者だけではなく、心臓病患者さんやそのご家族および地域の住民の方々を対象とした勉強会（心臓リハビリテーション健康教室）を定期的に行うことにしました。第1回は6月20日に行い、私、循環器科船田が担当しました。動脈硬化の成因と心臓病の関連やチーム医療としての包括的心臓リハビリテーションについて説明し、運動療法の方法や期待される効果、心臓病患者さんの日常生活についての注意点を中心にお話しました。途中の休憩時間には栄養士さんに作ってもらったスイーツ（好評）を食べてリフレッシュして頂きました。私の話の後には積極的な質問が相次ぎ、あっという間の1時間であったように思います。本教室の内容の一部はテレビ愛媛の夕方のニュース（健康一番）でも取り上げて貰いましたので、心臓リハビリテーションに関する啓もう活動の一役は担えたのではないかと考えています。今後、心臓リハビリテーション健康教室を定期的（次回は10月31日に予定しています）に継続していくことにより、心臓病患者さんや一般住民の方々の健康維持や生活の質の改善に役立てれば幸いに思います。

循環器科医長 船田 淳一

サマーフェスティバル '12.7.6

7月6日(金)、毎年恒例の療養介護病棟のサマーフェスティバルが、他病棟の患者様にも呼びかけ開催されました。残念ながら当日は雨…。屋内での実施となりましたが、会場に吊られた提灯が祭りのムードを盛り上げ、入院患者様とご家族や職員が集う盛大なイベントとなりました。

各方面で歌を披露されている『一文無し』というおやじバンドの楽しい演奏を聴いたり（当日はメンバーの都合でソロ演奏となりましたが）松山市内の小学校にて読み聞かせの活動をされている『大葉会』の方々によるお話を聞いたりしました。

一文無しの「痛風ブルース」などの歌は実体験をもとに作られているので、老若男女問わず笑ったり頷いたりしながら楽しむことができました。おやじバンドの皆さんの夢は紅白の舞台に立つこと



ほうじやね～

どのソースがいいですか？

だということなので、いつかテレビでお会いすることができるかもしれません。また、大葉会の皆さんの大型紙芝居では、音楽や歌に合わせ

♪痛風ふる～す月

て可愛い人形たちが登場し、会場みなさんは自然とお話の世界へ引き込まれていました。



楽しいひとときを過ごした後は、会場を移して栄養管理室の協力をいただいたデザートバイキングが催されました。初めての試みで混雑しましたが、ゼリーやかき氷、アイスクリームなどの冷菓コーナーに加え、スポンジケーキやプリンなどの上に自分の好きなソースをかけて、オリジナルデザートを作るコーナーもありました。「かき氷の上にアイスクリームを乗せて下さい」「チョコレートとイチゴソースをかけて下さい」といったユニークなリクエストもありましたが、出来上がったデザートにみなさん大満足の様子でした。

歌やお話のイベント、涼の味覚を楽しんだ夏のひととき。サマーフェスティバルが終わりに近づいた頃には雨も上がり、彦星様と織姫様がまるで空の上から微笑んでいるように感じられました。みなさんが短冊に込めた願いも、きっとお二人の元に届いたことでしょう。

療育指導室 須内留美子

50年に一度だけえ～
ワイルドだるお～

リュウゼツラン 開花



当院敷地の南西角（くるみ保育所の東側）に珍しい花が咲きました。龍舌蘭（リュウゼツラン）です。この花はメキシコを中心に米国南西部から中南米の熱帯域に自生する植物ですが、食用や繊維作物等として広く栽培されてもいます。日本でもあちこちで見かける割とポピュラーな植物ですが、花を見たことがある方は少ないのではないのでしょうか。

それもその筈で龍舌蘭は数十年に一度しか開花しない植物なのです。その為英語ではcentury plantという別名（英語名はagave）もつけられています。

こう言うのは花が怒るかもしれませんが、お世辞にも綺麗とか可憐とかいう言葉とは程遠い花ですし、敷地内の人目に付かない場所ということも

あってか、立ち止まって眺める人もあまりいないようです。

当院にはあと3株の龍舌蘭がありますが、今回開花したのはひと株だけです。

逆算してみるとこの株は、昭和30年代。東京オリンピックの前後に発芽したものと推測されます。数十年を経てようやく咲いた花ですが、龍舌蘭は一回結実性（一年性植物）なので花が終わると株は枯れてしまいます。たった1回の産卵のために生まれた河に還ってくる鮭のようだと思うのは私だけでしょうか。

ちなみに、テキラリュウゼツランから作られた蒸留酒はお馴染みメキシコの火酒テキーラになります。

外来相談で

いちご狩りだぜえ～マイルドだるお～

愛媛病院では、在宅生活を送る障害児・者とそのご家族を対象に、様々な支援を「外来相談」と称して行っております。5月の外来相談では、愛媛病院を飛び出しての院外療育ということで、双海へいちご狩りに出かけました。今回は11名の利用者さんとそのご家族に参加いただきました。

愛媛病院を出発し、約1時間ほど山道や海岸沿いをドライブして、双海の「いちご屋 おおもり」に到着しました。一人につきひとつのミニバケツを片手に、1時間のいちご食べ放題のスタートです！おいしそうないちごを前に「ほんとにどれでも食べていいの？」と初めは戸惑う様子もありましたが、一つ食べるとその甘い味にやみつきです。いちごの真っ赤な色にひかれて、目がくぎ付けになり、思わず手を伸ばしている方もおられました。みなさんバケツの中にいちごを山盛りにして、パクパクと食べ歩きしました。「あまおう」や「とよのか」などどこかで耳にしたことのある品種から、「あまおとめ」

や「レッドパール」などの珍しい品種のものまで、たくさんの種類のいちごが勢ぞろいしていました。「こっちの方が甘くておいしいよ」「いや、こっちのも食べてみて！」などと楽しく声を掛け合いながら、食べ比べができました。

いちご狩りのあとは、「双海シーサイド公園」です。先ほどお腹いっぱい食べたはずのいちごはどこへやら…というほどに、みなさん双海の海の幸を堪能していました。また、天気も良く絶好のお散歩日和で、波打ち際やモアイ像のような不思議な銅像の周りを、思い思いに散策でき、楽しいひとときとなりました。今回の外来相談では、親子や友達と楽しくふれ合いながら、双海の山・海どちらの自然も満喫でき、春を感じていただけたのではないかと思います。

このように、外来相談では毎月楽しい活動を行っております。参加者は随時募集しておりますので、お気軽にご相談ください。お申し込み方法は一般外来受診と同様です。また、ボランティアスタッフも募集しておりますので、療育指導室までお気軽にご連絡ください。

療育指導室 寺田 恭子



大人気 オープンスクール

平成24年7月21日(土)、28日(土)の2日、愛媛病院附属看護学校のオープンスクールを開催しました。梅雨の名残もあり天候が心配されましたが、両日とも晴天に恵まれ、高校生をはじめ社会人の方など、合計144名(21日=72名、28日=72名)の多くの方々に参加していただきました。予約状況も早い時期から定員に達するなど、受験生の皆さんの関心の高さが伺えました。

午前には、まずオリエンテーションで学校の概要説明をおこなった後、第一教室で教員による「喀痰吸引」「フィジカルアセスメント」の公開講座を実施しました。熱心に聞き入る参加者の皆さんの姿が印象的でした。

午後からは複数のグループに分かれ、在校生との交流会や看護技術体験(①喀痰吸引・足浴手浴、②血圧測定・呼吸音・心音聴取、③新生児の沐浴・妊婦体験)をおこないました。交流会では、まず



乳児沐浴体験

在学生在が授業や学校生活について説明した後、参加者からの質問に答えるかたちで話をしました。参加者は、最初はやや緊張した表情でしたが、次第に自然に会話も弾むようになり「入試で苦手な科目があるのですが、どう勉強すればいいですか?」「寮に入りたいのですが、どんな雰囲気ですか?」など、具体的な相談が寄せられ、在校生はそのつど熱心に答えていました。看護技術体験では、私たちが講義で実際に使用している人体のシミュレータを使って、模擬痰を吸引したり、グループの参加者同士で呼吸音や心音を聴取したり、新生児の人形を使って沐浴をおこなったりと、様々な看護技術を体験しました。

看護と一言で言っても、新生児から高齢者、病気の人や健康な人、病院や地域と、様々な対象に対する様々なケアがあります。そうした看護を日々学ぶ看護学生の学生生活の一部分を、この2日で体験をとおして学んでいただけたと思います。私達も、説明や演示を通して、今まで学んできた看護技術を振り返る良い機会になりました。そして入学前に「看護師になりたい!」と強い思いを抱いて本校を目指していた頃の自分を思い出し、初心を噛みしめるよき経験となりました。アンケート結果でも、本校への入学意欲が高まったとの感想もありました。今回の参加者の中から、一人でも多くの方に入学をしていただき、私達と一緒に学ぶ後輩になってくれることを願っています。

第9期生 谷本 理奈

ちよんと言いつい放し

愛媛病院ニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

社会人となり早一年。有意義な休日を通じたいと思いつい放し、趣味をと思いつい放し、ふと部屋の隅のピアノへ目がいきました。幼稚園の頃より何となく続けていたピアノ。高校へ進学する際、時間の都合が合わずやめてしまいました。学生の頃はたまに弾いていましたが、就職してからは鍵盤に触れさえしていませんでした。埃をかぶったピアノを目にし、上手くなったからとピアノを買ってしまいました。この喜びを思い出し、また、仕事をし始めてからあらためて、お金を稼ぐ大変さや大切さを実感し始めた頃だったため、「ピアノ高かったやろうによく買ってくれたな」と思い、親に申し訳ない気持ちになりました。ピアノの存在が気になり始めて1日目。掃除から始めてみました。しかし、その日は掃除で力尽き、弾くことにはなりません。2日目。久々に譜面を本棚より引っ張り出し、鍵盤に触れました。初めは以前のように弾けず「なんですか!」と自問自答していましたが、何年ものフランクがあるのが当たり前のようですが、納得がいかなかったのです。(笑)しかし、弾き始めると楽しく時間を忘れ、一時間以上弾いていました。それから少しずつ休

日にピアノを弾いて新しい曲にチャレンジしましたが、独学では限界がありました。そしてピアノのレッスンに通うようになり、レッスンに通うこととでいる方との交流も増え、とても有意義な休日を通じることができています。都合が合わず、なかなか通うことはできませんが、少しずつパートリが増えているのも最近の楽しみとなっています。当時は、ピアノが嫌いでもあり、練習せざる親にも、「嫌なんやったらやめてしまえば?」と怒られたこともありましたが、今となればいい思い出です。今では、高かったピアノを買ってくれたことや、嫌になってもピアノを続けさせてくれたからこそ今の趣味があることに感謝しています。まだまだ社会人として新米ですが何か親孝行できないかと考えつつ、一年目も頑張りたいと思います。

みかんだいふく



外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858
 外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

診療科	月	火	水	木	金	
内科	循環器内科	岩田 船田	船田 藤田・藤井	藤田	岩田	船田
	消化器内科	古田	山内(一)	久保	山内(一) 糖尿病専門 廣岡	久保
	呼吸器内科	阿部	市木 渡邊	佐藤	阿部 植田	市木
	神経	橋本	加藤			戸井
外科	外科			石丸		
	消化器外科		鈴木		渡部 (隔週・午前)	
	呼吸器外科				澤田・末久 第1・15時~	湯汲
	心臓血管外科				泉谷 (隔週)	
整形外科 午前のみ診療	横手	曾我部	横手	宮本	宮本(第2・4)	
	宮本		曾我部		曾我部 (第1・3・5)	
専門外来 (完全予約制)	心臓リハビリ 藤田	心臓リハビリ 藤田	心臓リハビリ 船田	心臓リハビリ 船田	糖尿病外来 古川 (第2・4)	
		SAS外来 渡邊 (14時~16時再診のみ)	ペインクリニック 山内(康)	ペースメーカー外来 第2・4(午後)		
	SAS外来 渡邊 (14時~16時再診のみ)	スキンケア外来 第1・3(午前)	SAS外来 植田(午後)	フットケア外来 毎週	じん肺外来 西村 (第1・3) 午前	
		アスベスト外来 (13時~16時)	神経難病 橋本	アスベスト外来 (13時~16時)		

※外来受付は午前8時30分から午前11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。 2012年10月1日現在
 ※容体急変の心臓疾患・急性呼吸不全の患者様は24時間受け入れます。
 ※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

独立行政法人国立病院機構 愛媛病院

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
 ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

当院の位置と交通



高速道路川内ICまでの所要時間

- 三島川之江IC(70km) 50分
 - 高松西IC(130.9km) 1時間30分
 - 徳島IC(170.9km) 1時間50分
 - 高知IC(130.1km) 1時間30分
- (川内ICから当院まで車で5分)

交通機関

- 電車 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分
 または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
- バス 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
 松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分
 無料駐車場完備